

令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画) ・中間 ・最終)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小

a 学校教育目標	自ら伸びるとともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) ・地域との協働のもと 主体的・自律的に生きる子どもを育成する。 <ビジョン>(将来の学校像) ・阿賀学園地域教育連携協議会(アガデミア)の活動を生かして、「活気ある学校」「保護者・地域から信頼される学校」「やりがいのある学校」を目指す
c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	昨年度から呉市「小中での創る『未来の学び』実践事業」の指定を受け阿賀中学校区で研究を進めており、授業や生活における居場づくりを通して、主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒を育成する取組を行っている。昨年度は、研究テーマの副題である「授業活における居場所づくり」について、本中学校区での捉えを共通認識することができた。そこで、今年度は、これまで取り組んできた「基盤に据え、本中学校区の授業スタイルを確立し、それに伴う手立てや工夫を一層充実させ、児童の学力向上に努めるとともに、児童の正確な実態把握(個の変容の把握)に基づく取組を進め、児童の誰もが安心して、目的意識をもって過ごせるようにしていきたい。 めざす子ども像 自分の考えをもつ子ども・最後までやりきる子ども・認め合い励まし合う子ども		
育成すべき資質・能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力 自らへの自信 思いやり・感謝・貢献		
評価計画(中期経営目標を設定してから 1 2 3 年目)			
自己評価			
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します) g 指標(効果を見とる目安) h 目標値 i 達成値 j 達成度 k 評価 i 達成値 j 達成度
***	学力の向上	① 基礎基本の学力の定着を図る。	・学力調査等の課題を踏まえ、指導の重点を定める。 ・「ドリルタイム」を年間計画に従って継続して取り組む。 ・漢字・計算の反復練習や課題克服のための学習を実施する。 ・個の課題に応じて、個別指導を行う。 ・授業改善を進める。 ・①問いをつくる ②自分の考えをしっかりとつ ③みんなの考えを交流する ④発展的ふりかえりの時間を確保する。 ・全国学力・学習状況調査において正答率30%未満、無回答率を「0」をめざす。 ・標準学力調査で全国平均より全校平均がプラス18点以上をめざす。(※各学年プラス3点以上) ・国語と算数の単元テストの平均点 ・児童の授業満足度(よくわかる)
**	自尊感情の高揚	① 規範意識を高める。 ② 思いやりの心を育てる。	・生活目標を示し、「返事・あいさつ・くつそろえ」を点検させる。 ・縦割り掃除を無言で行う。 ・クラスチャレンジ、阿賀小オアシス隊、阿賀小きれいにし隊等の活動の充実を図る。 ・「くん・さん」や「ほかほか言葉」を使う。 ・「返事・あいさつ・くつそろえ」の自己評価 ・「自分が好きだ」「自分にはよいところがある」の自己評価
*	基本的な生活習慣の定着と体力の向上	① 健康な生活を増進させる。 ② 体力の向上を図る。	・栄養教諭と連携した食に関する授業の実施や委員会活動を巻き込んだ運動を展開する。 ・定期的に生活カードで点検し、保護者啓発を促す。 ・「早ね・早おき・朝ごはん」の達成率(毎日朝ごはんを食べる。) ・体育授業の充実、「阿賀小準備運動」・「あがり運動」を実施する。 ・体力テストに向けてブラッシュアップカードを活用する。 ・新体力テスト(50m走、20mシャトルラン、長座体前屈)が県平均を上回る。
業務改善	やりがいのある学校づくり	① 児童生徒と向き合う時間を確保する。 ② 長時間勤務を削減する。	・会議時間、研修時間等を短縮する。 ・平日18時30分退校、週1日17時退校を徹底する。 児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合 時間外勤務が月45時間を超えない教職員の人数

【k:自己評価 評価】
 A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

1月1日

姓校

楽し
。

所づ
や生
とを
童の

k
評価